大正八年三月七日 第三種郵便物認可 昭和三年一月廿九日 THE IWAKIJIHO 日曜日（第四千二百十七號）（一）

磐城時報

廿八日夕刊

福島縣石城郡平町紺屋町十番 編輯兼發行人 關田弘毅 印刷人 石城郡平町新田町十四 印刷所 磐城活版所 發行所 石城郡平町十五 磐城時報社 一部金弐銭 一ヶ月金参拾銭 廣告料一行金四拾銭 金五十銭 ◇日刊（毎週、祭日）休刊

政友候補木村氏 正式届出を了す
こゝ一兩日中に猛烈な戰鬪を開始

民政黨に先手を打つて早くも立候補を聲明した政友候補木村清治氏は昨報の如く選擧事務長から遊説部長まで人選を終え事務所は平町に本部をおく等下準備を整へ、二十八日には午前十時平區裁判所内供託局に保證金二千圓を供託し立候補の正式手續をなし直ちに運動に着手する事になつたが、木村氏の手續きは石城郡に於ける最初の届出である。

民政黨に機先を制し 佐川氏正式届出

石城郡を根據地として民政黨系の中立を標榜し代議士選擧に候補者として名乘りをあげるものと見られてゐた好間村出身佐川潔氏は二十八日午前三時小驛着列車で來平し民政黨に機先を制して二十八日午後一時平區裁判所供託局に保證金を提出し正式の手續を了し戰端を開始する事になつた。

石城は大混戰か

石城郡の代議士選擧は別項の如く政友木村清治氏を皮切りに中立佐川潔氏も二十八日に正式届出をなした外民政黨から此佐昌平氏、中立として荒川精一氏の立候補は確定的のものである外郡内、約五千名の組合員を有する無産黨からも候補者が現はれる模樣で、候補者は石城郡のみで五名の多數に上る可く、石城は一大混戰地と化すであらうと見られてゐる。

荒川氏も近く届出

代議士候補者と見られてゐた政友系の荒川精一氏は一兩日中に正式の届出でをなし運動に着手する筈である。

平地方 選擧と花柳界

平町の花柳界では附近町村が何れも舊正月にあらざれば眞の正月氣分を味はふ事が出來ない關係から昨今舊正月にて農村を中心とする景氣を誘發せんとしてゐた矢先、待ちもうけぬ總選擧に遭遇する事になつたので其期待も裏切られ新正月に一息吐いたかと思へばまたしてもいつしか青息の早がはりとなつて了つた。

争議後の品川白煉瓦 順調に進む

品川白煉瓦株式會社湯本工場では昨年春モラトリアム恐慌に相つぎ勞働組合運動の渦中に捲き込まれて生産能力の大半は空費せられた狀態であつたが、組合運動も會社側に有利なる條件にて解決せられて以來昨年十一月中より業態頗る順境に推移し昨今能力を發揮して操業を續けてゐるが同工場としては既に衆議院の大建築を初めとして中央に於ける耐火建築物の纒まりたる大口註文を擁してゐるので輕量煉瓦の如き本年六月迄は間髮を入れぬ生産を續けねばならぬ有樣であるが今後一般經濟界の立直りを見るに至ると共に各方面よりの註文も尚一層輻輳を告ぐるに至るべく久しき間苦境に惱まされつゝありし同工場も漸次順境を辿る機運に逢着するかと愁眉を開かれるに至つた。

繭市場好成績 增設の計畫

石城郡販賣利用組合では四倉驛前に設けた繭市場が好成績を擧げたので平町及び植田町にも繭市場設置の要望が高まつて來たので近く役員會を開き協議の筈であるが工費として約七萬圓を要するため組合員の增加をはかり且つ三萬圓の國庫補助を申請する筈である。

濱三郡木炭組合で 規約改正を叫ぶ
本部と呼應して運動する

濱三郡木炭同業組合では現在の規約が組合が創立された當時即ち三十年前に制定されたもので現在では不便を感ずる事多く殊に同業者を强制的に加入せしめる事及び組合費を强制徴收する事が出來ないので困つてゐた矢先き組合聯合會本部でも同樣の不便を感じたゝめ規約改正を叫びつゝあるので濱三郡木炭組合では此際本部と呼應して左の規約改正を目的に猛烈運動を起す事になつた。

▲營業者は全部組合員とする事

▲經費及び過怠金の徴收は國稅徴收法による事

▲不正品を差押へた場合之を破毀した者は刑法の處罰を與へる事

▲女房殺し送局

既報女房殺上遠野村農櫛田一郎（五〇）は廿七日平檢事局に送らる

染上を依頼された 反物數百點を詐取
自稱京染外交員捕はる

新潟縣中魚沼郡中条村字四日町新田生れ當時平町字胡摩澤居住大熊政一（三八）は京都染工場の外交を依頼されたと稱し平町附近百數十軒からお召、銘仙其他高價なる反物二百余点を預り染上に送附するもの〻如く裝ひ全部入質或は賣却して橫領した事發覺平署に捕はれたが、被害者判明せざるもの多く、心當りの者は至急平署に申告されたいと語つてゐる。

納豆賣りに 級友が忠告

最近平町の朝まだきと黄昏時の薄暗みを破つて「納豆、なつとう」の呼び聲もいと哀れに戸毎戸毎を賣歩く少年納豆屋の數が增して來た事は實に夥しいものである、種々なる事情も潛在してゐる事ではあらうがそうした家庭上の事情など第二として先づ小さな尋常二三年位から斯うした社會の第一線に立つて雄々しくも家計、父兄の手助けにならうとする其心事は態度の眞面目である以上將來堅實なる人材養成の意味から考へても讚美してやらねばならぬ、寧ろ獎勵して可なる事柄であるが、兎もすれば其行爲が各戸を訪れて押賣的態度を示し一般から忌避される如き傾向を示すに至つたので平第一小學校の級組長會では小人格會が相會し小學生としての體面を傷つけ更に社會に迷惑を崇らしむるが如き事實ありては小さきながらも社會問題として看過すべからざる惡弊を醸すものであるから其態度も少年的に且飽迄も小學生の體面を保ち得る程度に改め專心家庭の手傳ひを完全にして貰ひたいと申し合せをなし廿六日級組長會側から夫れ〴〵其雄々しい級友達に貴い勸告を齎したと言ふが、聞くも涙ぐましい熱誠籠れる奮起の現れではあるまいか。

▲目貫魚を盗む

北海道爾志郡熊石村大字熊石字丸山生れ當時住所不定無職阿部西太郎（三六）は二十五日夜江名町大字仲の作字川岸塩源作所有の目貫十貫十二圓を竊取したのを江名駐在長谷場巡査に捕はれ目下取調中である。

（映畫界）
▲劍と戀

油留木三四郎は父の仇を搜し求めて慘苦十年未だ目的を遂げない、焦燥と疲勞は遂に彼の心を荒み切らした彼はわけもなく同じく父の仇を討し喜ぶ相良傳次郎を斬つた、そして彼は結局牢屋住居を安息所として引かれた、圖らずも新入の浪人は父の仇佐原木龍太郎であつた、仇は今や病氣になやみ且つ自ら討たれんと彼を搜してゐた事が判つて彼は仇を討つの氣になれなかつた佐原木を助ける爲めに遂に破牢した、三四郎、佐原木が逃げ込んだ尼寺は相良の妹が居た、仇とアダとアダ同士の會合であつた、併し相良の妹百合江は却て彼等を庇つた、三四郎はアダ討を止めて故郷へ歸つたが藩中の者は彼を容れないので遂に自暴自棄に荒み切つて行く。百合江はカタキの三四郎に戀を感じてゐる、三四郎も亦憎からぬ思ひである、佐原木は二人の仲を嫉ましく思ふ樣になつた。三四郎の嫉なアダ討があつた、それを制せんとして再び双方を刀の錆にした三四郎は又牢屋住居となつたが百合江の事が忘れられず遂に破牢した、その時五人の家老を斬つた、家に歸つた三四郎の目前には佐原木の魔手が百合江を散さんとしてゐた、三四郎と佐原木の呪の劍は遂に炎花を散すに至つた、佐原木が父のアダとして斬結ぶ三四郎の背後からは五人の家老の悴が父のカタキと迫つて來る。三四郎は遂に佐原を斃して父のアダを報ひしも逃る途なく百合江との戀の世界に生きるべく百合江は兄のアダを報ずると共に二人は相刺して死の旅へ。

新川柳

新島生

五六日假病で休む不平あり
ホチームン癖を隠して賴り合ひ
盛り場で死んだ噂の友に逢ひ
女教員發すに師範出を選び
苦學生女給をしてる姉があり
妻と母今日買物に氣が揃ひ
讓歩する社長に暗い過去があり
歩かせて抱いて日曜子と暮れる
復習をさせて母親お茶を入れ

牛豚肉大投賣

牛中肉　百匁　金三十錢
上肉　同　金五十錢
ロース　同　金七十錢
ヒレ　同　金九十錢
豚中肉　百匁　金三十錢
ロース　同　金六十錢

食肉の廉賣王　平町停車場前（平劇場入口）
深谷牛肉店
電話五二四番

福わ内會

會員募集

會費金參拾錢

御加入之方ニハ家内安全ノ祈禱ノ御札及福豆、御神酒ヲ差上マス　但十人一組トシ一組之内金豆ノ豆大黒一個ヲ授ク

式順序

二月四日（舊正月十三日）午前十時一般會員ノ祈禱、仝午後二時歳男ノ祈禱

但シ歳男御希望ノ方ハ奉納五圓也ヲ納メ旅館ニテ御神酒本膳ヲ供シ旅館ヨリカミシモヲ着シ途中蒔砂ヲナシ社殿ニ參入ノ事

附

一、世話人ノ御方ニシテ三十人以上御勸誘ノ際ハ福桝一個ヲ贈呈ス　但シ世話人ノ方モ會費ハ申受ク

二、締切ハ昭和三年二月一日舊正月十日トス

理化學研究所製

吸入用酸素
酸素吸入器

優良なる理研の酸素の御用意を……

特約店　三關内藥舖
福島縣平町（電話四〇番）
藥劑士　關内榮助

謝罪廣告

私共儀從來貴殿等ニ恩義ニ預リ居リ候ニ不拘他ノ煽動ニ因リ虚僞ノ訴ヲ提起シタルハ甚ダ心外ノ至リニ御座候今回御寛大ナル御處置被成下御兩所ニ謝罪致候

平町字白銀町
謝罪人
山本福松
今野一郎
鈴木角太郎

平町白銀町
信殖會長
櫻井清殿
同理事
水野龜太郎殿

金牌受領
印半天專門
優秀品ノ証明
草野染工場
磐城平町
電話三四八番

◉徒弟入用（徒弟契約に付ては年明きに際し有利に御相談申上候）

常磐第一ノ大ナル炭礦　磐城炭礦ノ炭礦

ツ石炭とコークスの特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速

ドーシテ、アンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカ驚カレ、一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス。

値段正十貫目一俵金六十五錢也

平驛前
電話二三七番
ツ阿部石炭商店

平町病醫院案内

外科一般　婦人科　耳鼻咽喉科　赤心堂病院　田町（電話四七五番）

眼科專門　吉田眼科醫院　紺屋町（電話六八番）

内科、外科　淋病、黴毒科　藤沼醫院　紺屋町（電話五〇七番）

内科外科　婦人科小兒科　花柳病科　磐城病院　田町本通り（電話一一四番）

耳鼻咽喉科　大和田醫院　南町（電話一七〇番）

齒科專門　原齒科醫院　土橋通り（電話三一番）

内科外科　耳鼻咽喉科　花柳病科　高久病院　田町（電話一三五番）

内科　胃腸病科　梅毒科　淋病科　松村病院　南町（電話一〇七番）

外科專門　上田外科醫院　南町（電話一二九番）

資本金　八五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金並ニ繰越金　八七、三〇〇、〇〇〇
諸預金　六二六、二二八、〇〇〇
諸貸附金　八七四、一六〇、〇〇〇
全國爲替取引先參百七拾個所

株式會社　磐越（バンエツ）銀行
（改稱第拾九回　昭和貳年下半期）

決算公告

貸借對照表

負債之部

資本金　八五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金　七三、〇〇〇、〇〇〇
諸預り金　六二六、二二八、九八〇
爲替借及借入金　六九、〇三七、六六〇
未拂利息及未經過割引料　一三、三八一、八一〇
未拂割賦金　七三、三二〇
當期純益金　二三、三一五、〇九〇
合計　一、六五五、六八六、八六〇

資産之部

未拂込資本金　六〇四、五〇〇、〇〇〇
諸貸出金　八七四、一六〇、八〇〇
割手、荷手　四一、九一一、〇九〇
爲替貸　一六、三五二、六七〇
國債及所有物　六七、四一六、八〇〇
預ケ金及現金　五一、三四五、五〇〇
合計　一、六五五、六八六、八六〇

利益金處分

當期純益金　二三、三一五、〇九〇
之ヲ處分スル事左ノ如シ
法定準備金　二、五〇〇、〇〇〇
特別積立金　二、〇〇〇、〇〇〇
行員退職給與積立金　五〇〇、〇〇〇
重役賞與金　四二二、五九〇
株主配當金（年七分）　八、五九二、五〇〇
後期繰越金　八、八〇〇、〇〇〇

右之通リ候也

昭和參年壹月

株式會社　磐越（バンエツ）銀行

專務取締役　中野甲藏
頭取　小野靜重
取締役　蘭田嘉藏
取締役兼支配人　瀧澤俊平
監査役　大谷喜作
監査役　小林利光